



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

学期	前期	曜日・校時	月4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566005009	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(緑地環境学)		
編集担当教員	渡辺 貴史		
授業担当教員名(科目責任者)	渡辺 貴史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	渡辺 貴史		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	twatanab@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環423		
担当教員TEL	819-2718		
担当教員オフィスアワー	水曜日12:00-14:00		
授業のねらい	緑地環境に関わる基本的知識を身に付け、緑地を活かした地域づくりの重要性を認識する。		
授業方法(学習指導法)	主として教員が配付するハンドアウトにもとづき、板書・パワーポイント等を用いて説明する。なお、講義内容の理解をうながすために、小レポート及びテストをおこなうことがある。		
授業到達目標	(1)緑地環境に関わる基本的用語や見方等を身に付ける。(2)(1)の知識をもとに、現実の緑地環境を批判的に分析し、効果と問題点を把握し、問題点の解決に役立つ対策を説明できる。		
授業内容	前半(第1-5回)は、主として、緑地の定義、緑地の計測・分析、緑地の機能(分類の仕方・内容)、機能と暮らしの結びつきなど以降の授業を聴く上で基本となる知識について説明する。中盤(第6-15回)では、緑地環境が立地する地域を、(1)都市地域、(2)郊外地域、(3)農山村地域にわけ、それぞれの地域にみられる主要な緑地環境の役割・歴史・現状・問題点について説明する。第16回は、定期考査を行う予定である。		
	回	内容	
	1	イントロダクション:緑地とは何か	
	2	緑地環境をはかる	
	3	緑地環境を分析する	
	4	緑地の機能(1):緑地の機能とは?	
	5	緑地の機能(2):わたしたちの暮らしと緑地の機能の関係	
	6	都市地域の緑地(1):都市公園の歴史とこれから	
	7	都市地域の緑地(2):都市の人工空間における緑化	
	8	都市地域の緑地(3):水辺を活かした地域づくり	
	9	郊外地域の緑地(1):郊外住宅地の緑地の形成	
	10	郊外地域の緑地(2):ニュータウンの緑地の成り立ち	
	11	郊外地域の緑地(3):都市と「農」の新たな関係	
	12	郊外地域の緑地(4):里地・里山とは何か?	
	13	農山村地域の緑地(1):農林地の環境保全機能	
	14	農山村地域の緑地(2):農林地を活かした地域づくりの現状と問題点	
	15	農山村地域の緑地(3):日本の森林の現状と問題点	

	16 定期考査
キーワード	公園, 街路樹, 水辺, ニュータウン, 農林地, 森林, 環境保全機能, 景観保全, 生物多様性
教科書・教材・参考書	教科書: 武内和彦・佐藤洋平他編「環境科学基礎」実教出版 教材: 講義時にハンドアウトを配布する予定です. 参考書: 平田富士男:「都市緑地の創造」. 朝倉書店/横張真・渡邊貴史編:「郊外の緑地環境学(仮題)」. 朝倉書店, 武内和彦・鷺谷いづみ・恒川篤史編:「里山の環境学」. 東京大学出版会.
成績評価の方法・基準等	平常時の取り組み(授業中の態度, レポート・課題への取り組み): 30% 定期試験: 70%
受講要件(履修条件)	(1)都市計画や農村計画等の地域計画に関心を持っている, (2)造園学・建築学・生態学・地理学・心理学といった学問分野に興味を持っていると, 興味深く取り組めるかもしれません.
本科目の位置づけ	緑地を活かした地域づくりに必要な人文・社会科学, 工学, 自然科学の基礎的な知識の使い方を学ぶ科目です. 関連科目としては, 都市・地域計画, 地域・環境政策関連の科目などが挙げられます.
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	(1)分類は, 人文・社会科学系の科目となっておりますが, 緑地を扱っているため, 講義内容に自然地理学・生物学・生態学といった自然科学的な要素が含まれることをあらかじめご承知おください. (2)内容及び順番は, 講義の進み具合によって, 変わる可能性があります.



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木2																												
開講期間																															
必修選択	選択	単位数	2.0																												
時間割コード	20110566005007	科目番号	05660050																												
授業科目名	●社会と歴史(観光ツーリズム論)																														
編集担当教員	深見 聡																														
授業担当教員名(科目責任者)	深見 聡																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	深見 聡																														
科目分類	人文・社会科学科目																														
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																												
教室	[全]102																														
対象学生(クラス等)	全学部																														
担当教員Eメールアドレス	fukami@nagasaki-u.ac.jp																														
担当教員研究室	環境科学部本館1階115号室																														
担当教員TEL	095-819-2720																														
担当教員オフィスアワー	火曜13:00-16:00																														
授業のねらい	日本は人口減少社会を迎え、各地で地域の特性を活かした「地域づくり」「まちづくり」といった取り組みへの期待が高まっている。とくに、交流人口を生み出し持続可能な地域社会形成につながる「観光ツーリズム」に期待が向けられている。そこでこれから私たちが快適に生活していくにはどうすればよいのかを、地域特性を把握する視点や手法、地域にみられる事例を知り、比較検討することが不可欠であることへの認識を深める。																														
授業方法(学習指導法)	テキストや新聞記事等の配布資料を中心として、視聴覚機器(パワーポイントやDVD)を用いながら進めていく。																														
授業到達目標	「観光」「地域づくり」の定義と実際、その種類と内容の理解を基礎として、九州をはじめ国内外をケーススタディに、観光と地域コミュニティのかかわり、人間環境(人文環境)や自然環境への影響、住民と行政が協働した地域づくり・まちづくりのあり方などについて、それぞれの理解を深める。																														
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/7 オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/14 観光とは何か</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/21 観光へのアプローチ手法</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/28 観光と地域住民(1) -観光ボランティアガイド-</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/12 " (2) -エコミュージアム-</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/19 " (3) -世界遺産とは-</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/26 " (4) -世界自然遺産①-</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6/2 " (5) -世界自然遺産②-</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>6/9 " (6) -世界文化遺産①-</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>6/16 " (7) -世界文化遺産②-</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>6/23 観光と地域社会(1) -災害復興とアートマネジメント-</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>6/30 " (2) -都市観光(アーバン・ツーリズム)-</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>7/7 " (3) -産業遺産観光(ヘリテージ・ツーリズム)-</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	4/7 オリエンテーション	2	4/14 観光とは何か	3	4/21 観光へのアプローチ手法	4	4/28 観光と地域住民(1) -観光ボランティアガイド-	5	5/12 " (2) -エコミュージアム-	6	5/19 " (3) -世界遺産とは-	7	5/26 " (4) -世界自然遺産①-	8	6/2 " (5) -世界自然遺産②-	9	6/9 " (6) -世界文化遺産①-	10	6/16 " (7) -世界文化遺産②-	11	6/23 観光と地域社会(1) -災害復興とアートマネジメント-	12	6/30 " (2) -都市観光(アーバン・ツーリズム)-	13	7/7 " (3) -産業遺産観光(ヘリテージ・ツーリズム)-
回	内容																														
1	4/7 オリエンテーション																														
2	4/14 観光とは何か																														
3	4/21 観光へのアプローチ手法																														
4	4/28 観光と地域住民(1) -観光ボランティアガイド-																														
5	5/12 " (2) -エコミュージアム-																														
6	5/19 " (3) -世界遺産とは-																														
7	5/26 " (4) -世界自然遺産①-																														
8	6/2 " (5) -世界自然遺産②-																														
9	6/9 " (6) -世界文化遺産①-																														
10	6/16 " (7) -世界文化遺産②-																														
11	6/23 観光と地域社会(1) -災害復興とアートマネジメント-																														
12	6/30 " (2) -都市観光(アーバン・ツーリズム)-																														
13	7/7 " (3) -産業遺産観光(ヘリテージ・ツーリズム)-																														

	14	7/14 安全学からみた観光教育
	15	7/21 観光ツーリズムの諸様相 -医療観光、“負の遺産”と観光、国際協力と観光-
	16	8/4 期末試験
キーワード	地域活性化、地域資源、NPO、コミュニティ、持続可能性、九州・沖縄の観光	
教科書・教材・参考書	教科書:深見聡・井出明編著『観光とまちづくり-地域を活かす新しい視点-』(古今書院、2010年) 教材:適宜プリント等を配布する。 参考書:井口貢『まちづくり・観光と地域文化の創造』(学文社、2005年) 宮口侗迪『新・地域を活かす- 一地理学者の地域づくり論- 』(原書房、2007年)	
成績評価の方法・基準等	期末試験(または期末レポート)70%、中間レポートの提出(1回)30%を基準として総合的に評価する。 *自主的に講義感想等の小レポートを提出した場合、加点の対象とすることがある。 *期末試験を実施する場合、教科書・自筆ノート・配布プリントの持ち込み可。	
受講要件(履修条件)	なし	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	毎回の講義概要を掲載したブログを開設しているので、気軽書き込みしてください。 http://blog.livedoor.jp/satoshifu/	





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4																		
開講期間																					
必修選択	選択	単位数	2.0																		
時間割コード	20110566005008	科目番号	05660050																		
授業科目名	●社会と歴史(現代人類学入門)																				
編集担当教員	波佐間 逸博																				
授業担当教員名(科目責任者)	波佐間 逸博																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	波佐間 逸博																				
科目分類	人文・社会科学科目																				
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																		
教室	[全]227																				
対象学生(クラス等)	全学年																				
担当教員Eメールアドレス	hazama@nagasaki-u.ac.jp																				
担当教員研究室	国際連携研究戦略本部:坂本キャンパス																				
担当教員TEL	2296																				
担当教員オフィスアワー	火曜16時～17時																				
授業のねらい	普遍主義的な正義の推進やマスターナラティブ(「大きな物語」)の構築作業からはずべりおちてしまいがちだが、世界の「無名」の人びとの、下からのミクロな実践にこそ、貧しい人、疎外された人、弱い人、周縁化された人に役立つ方向へグローバルイゼーションを変化させる、柔軟で豊かな可能性が含まれていることを確認する。																				
授業方法(学習指導法)	PPTやビデオ(DVD)、レジュメを使用する。																				
授業到達目標	人類学のひとつの特徴は、他者の生の現場に自身の身体をおくことによって日々のなにげない出来事やことばをわかちあい、日常的に経験や認識をかさねあわせてゆく方法をつかうところにある。現代人類学入門では、この共感法とよばれる方法の習得とともに、他者理解をとおしての自己理解をめざす。 具体的には、現代人類学の基礎的な語法とその背景にふれながら、自らの生き方や社会のありかたを相対化しつつ、他者や自然に共鳴しながら共存する社会の実現にむけて、能動的に考察・実践できる姿勢を身につけることをめざす。																				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/7 はじめに</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/14 人種概念と動物性</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/21 生態人類学の方法:カラハリ狩猟採集民の日常行動～放牧の存立</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4/28 方法としての語り:病者と治療者の語り～長い沈黙と仮借なき婚資交渉</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/12 民族集団と親族体系:北東アフリカの浮遊するアイデンティティ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/19 自動ライフル銃の拡散と辺境</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/26 ケニア・サンプルの牧畜民社会の二重経済</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6/2 ナショナリズムの流行の歴史と民族・国民の形成</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	4/7 はじめに	2	4/14 人種概念と動物性	3	4/21 生態人類学の方法:カラハリ狩猟採集民の日常行動～放牧の存立	4	4/28 方法としての語り:病者と治療者の語り～長い沈黙と仮借なき婚資交渉	5	5/12 民族集団と親族体系:北東アフリカの浮遊するアイデンティティ	6	5/19 自動ライフル銃の拡散と辺境	7	5/26 ケニア・サンプルの牧畜民社会の二重経済	8	6/2 ナショナリズムの流行の歴史と民族・国民の形成
回	内容																				
1	4/7 はじめに																				
2	4/14 人種概念と動物性																				
3	4/21 生態人類学の方法:カラハリ狩猟採集民の日常行動～放牧の存立																				
4	4/28 方法としての語り:病者と治療者の語り～長い沈黙と仮借なき婚資交渉																				
5	5/12 民族集団と親族体系:北東アフリカの浮遊するアイデンティティ																				
6	5/19 自動ライフル銃の拡散と辺境																				
7	5/26 ケニア・サンプルの牧畜民社会の二重経済																				
8	6/2 ナショナリズムの流行の歴史と民族・国民の形成																				

	9	6/9 難民キャンプの民族誌
	10	6/16 グローバル時代の組織的暴力と民族境界を越える自生的なアソシエーション
	11	6/23 ケニア・マサイのエスニック・アイデンティティの政治化
	12	6/30 ボツワナの自然保護区における「先住民」問題
	13	7/7 戦争の動機づけをめぐる人類学的エスノシステム論: 西南エチオピア
	14	7/14 略奪の意味づけをめぐる社会的相互行為論: 北東ウガンダ
	15	7/21 まとめ
	16	レポート提出
キーワード	共生、世界市民、日常実践	
教科書・教材・参考書	特定の教科書は使用しないが、以下を参照する。-増田研2001「武装する周辺: エチオピア南部における銃・国家・民族間関係」『民族学研究』65(4):313-340 -松田素二2005「土地の正しい所有者は誰か: 知の政治学を超えて-東アフリカ・マサイ人の土地返還要求の事例から」『環境社会学研究』11:70-87 -メアリー＝カルドー2003『新戦争論』(山本・渡部訳) 岩波書店 -田中・佐藤・菅原・太田編2004『遊牧民(ノマッド)-アフリカの原野に生きる』昭和堂	
成績評価の方法・基準等	平常点(授業への参加度: 4割)、レポート(授業内容理解と着想の独自性を見るための論述: 6割)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566005004	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(環境と平和の社会学)		
編集担当教員	戸田 清		
授業担当教員名(科目責任者)	戸田 清		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	戸田 清		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]201		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	toda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部4階環407教員室		
担当教員TEL	095-819-2726		
担当教員オフィスアワー	月曜15-17時		
授業のねらい	社会学と平和学の観点から、現代の環境問題、平和問題、人権問題などを分析し、歴史的背景を理解し、自分なりの解決策を構想する思考力を養う。		
授業方法(学習指導法)	現代社会の諸問題を社会学と平和学の観点から分析する方法について、授業内容で示したような具体的事例を通じて学ぶ。映像資料を活用する。教科書を通読しておく理解が容易になる。		
授業到達目標	直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力、アメリカ問題、核の軍事利用と民事利用、水俣病、カネミ油症、女子割礼、戦争犯罪などについて説明できるようにする。		
授業内容	回	内容	
	1	4月8日 社会学と平和学	
	2	4月15日 水俣病その1 公害・環境問題の原点	
	3	4月22日 水俣病その2 半世紀かかって解決できないのはなぜ	
	4	5月6日 カネミ油症	
	5	5月13日 じん肺とアスベスト	
	6	5月20日 日本の戦争犯罪その1	
	7	5月27日 日本の戦争犯罪その2	
	8	6月3日 アメリカの戦争犯罪その1 原爆投下	
	9	6月10日 アメリカの戦争犯罪その2 劣化ウラン兵器	
	10	6月17日 無国籍問題を考える	
	11	6月24日 民衆法廷	
	12	7月1日 スクールオブアメリカズ、911事件の謎	
	13	7月8日 宇宙の軍事化、原発被曝労働	
	14	7月15日 女子割礼	
	15	7月22日 人類と類人猿ボノボの比較	
	16	8月5日 定期試験	
キーワード	直接的暴力、構造的暴力、アメリカ問題、戦争犯罪、水俣病、ボノボほか		

教科書・教材・参考書	教科書は戸田清著『環境正義と平和』(法律文化社2009年)。参考書は適宜紹介する。
成績評価の方法・基準等	定期試験(70%)、毎回のミニレポート(30%)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	内容的には全学教育の教養特別講義(平和)、平和講座、環境科学部の環境社会学Ⅰ、環境社会学Ⅱと多少関連する。
学習・教育目標	現代の社会問題の構造的な背景を理解する。
備考(URL)	http://todakivosi.web.fc2.com/
備考(準備学習等)	教科書を通読すること。なお定期試験は教科書持ち込みとなる。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火3																														
開講期間																																	
必修選択	選択	単位数	2.0																														
時間割コード	20110566005002	科目番号	05660050																														
授業科目名	●社会と歴史(テストの科学とその歴史)																																
編集担当教員	木村 拓也																																
授業担当教員名(科目責任者)	木村 拓也																																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	木村 拓也																																
科目分類	人文・社会科学科目																																
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																														
教室	[全]430																																
対象学生(クラス等)	全学年																																
担当教員Eメールアドレス	kimura-t@nagasaki-u.ac.jp																																
担当教員研究室	アドミッションセンター(入試課奥)																																
担当教員TEL	095-819-2115																																
担当教員オフィスアワー	随時(メールでアポイントを必ず取る)																																
授業のねらい	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。																																
授業方法(学習指導法)	講義方式																																
授業到達目標	テストにおける心理学的・社会的・歴史学的・統計学的見方を修得する。テストデータを用いた項目分析が実施可能となる。																																
授業内容	<p>入学試験・就職試験・資格試験・昇格(昇任)試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する科学的な知識に接する機会 は 殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を、歴史学・社会学・心理学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」(test theory)と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行うことを目的とする。「テスト」を単に「害悪」と捉えるのではなく、「テストの結果が、個人の処遇や人生を大きく左右するものであるが故に、その実施にあたっては、細心の注意を払うべき類のものである」との認識に立って、よりよい「テスト」を実施していくための「基礎教養」の修得を目指す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10/4:オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10/11:テストの基礎――暗黙のルールとその形式、テスト作成手順</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10/18:テストの社会学――学歴社会の理論、メリトランシー論の概要</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10/25:テストの心理学――社会心理学から見た大学入試の公平感</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>11/1:テストの歴史学(1)――江戸時代のテスト</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11/8:テストの歴史学(2)――心理テストの起源</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11/15:統計学の基礎(1)――偏差値</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11/22:統計学の基礎(2)――相関係数</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>11/29:統計学の基礎(3)――サンプリング</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>12/6:テストの統計学(1)――項目分析と統計的方法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12/13:テストの統計学(2)――信頼性</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>12/20:テストの統計学(3)――妥当性</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>1/10:テストの統計学(4)――項目反応理論</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>1/17:テスト現場の実際(1)――人事アセスメント(採用試験・昇任人事)の考え方</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	10/4:オリエンテーション	2	10/11:テストの基礎――暗黙のルールとその形式、テスト作成手順	3	10/18:テストの社会学――学歴社会の理論、メリトランシー論の概要	4	10/25:テストの心理学――社会心理学から見た大学入試の公平感	5	11/1:テストの歴史学(1)――江戸時代のテスト	6	11/8:テストの歴史学(2)――心理テストの起源	7	11/15:統計学の基礎(1)――偏差値	8	11/22:統計学の基礎(2)――相関係数	9	11/29:統計学の基礎(3)――サンプリング	10	12/6:テストの統計学(1)――項目分析と統計的方法	11	12/13:テストの統計学(2)――信頼性	12	12/20:テストの統計学(3)――妥当性	13	1/10:テストの統計学(4)――項目反応理論	14	1/17:テスト現場の実際(1)――人事アセスメント(採用試験・昇任人事)の考え方
回	内容																																
1	10/4:オリエンテーション																																
2	10/11:テストの基礎――暗黙のルールとその形式、テスト作成手順																																
3	10/18:テストの社会学――学歴社会の理論、メリトランシー論の概要																																
4	10/25:テストの心理学――社会心理学から見た大学入試の公平感																																
5	11/1:テストの歴史学(1)――江戸時代のテスト																																
6	11/8:テストの歴史学(2)――心理テストの起源																																
7	11/15:統計学の基礎(1)――偏差値																																
8	11/22:統計学の基礎(2)――相関係数																																
9	11/29:統計学の基礎(3)――サンプリング																																
10	12/6:テストの統計学(1)――項目分析と統計的方法																																
11	12/13:テストの統計学(2)――信頼性																																
12	12/20:テストの統計学(3)――妥当性																																
13	1/10:テストの統計学(4)――項目反応理論																																
14	1/17:テスト現場の実際(1)――人事アセスメント(採用試験・昇任人事)の考え方																																

	15	1/24:テスト現場の実際(2)——データ分析の事例紹介(M-1グランプリの信頼性分析)
	16	
キーワード	テスト理論、大学入試、学力調査、人事アセスメント	
教科書・教材・参考書	<p>基本的には資料を配布します。課題提出のために、課題図書を購入する必要がある。なお、文献一覧は初回に配布します。</p> <p>課題図書の例：日本テスト学会編『テストスタンダード』(金子書房、2007年) 日本テスト学会編『見直そう、テストを支える基本の技術と教育』(金子書房、2010年) 参考書：肥田野直『心理学研究法7 テスト1』(東京大学出版会、1972年) 池田 央『心理学研究法8 テスト2』(東京大学出版会、1973年) 荒井克弘・倉元直樹編『全国学力調査——日米比較』(金子書房、2008年)</p>	
成績評価の方法・基準等	中間に課す読書レポートと期末に課すデータ演習レポート(1回)の評点を合計して評価する。課題図書を購入する必要があるので注意すること。	
受講要件(履修条件)	統計学の基礎知識があることが望ましいが、初学者にも充分に配慮する。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)	http://www.jartest.jp/	
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火4																																
開講期間																																			
必修選択	選択	単位数	2.0																																
時間割コード	20110566005003	科目番号	05660050																																
授業科目名	●社会と歴史(ヨーロッパ前近代の社会)																																		
編集担当教員	正本 忍																																		
授業担当教員名(科目責任者)	正本 忍																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	正本 忍																																		
科目分類	人文・社会科学科目																																		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																
教室	[全]403																																		
対象学生(クラス等)	全学部																																		
担当教員Eメールアドレス	masamoto@nagasaki-u.ac.jp																																		
担当教員研究室	環403																																		
担当教員TEL	819-2742																																		
担当教員オフィスアワー	金曜日 14:00-15:00																																		
授業のねらい	本講義では、フランスにおいてとりわけ1960年代から「社会史」の領域で多くの成果を上げているアナル派の研究成果に依拠しつつ、前近代のヨーロッパ人(特にフランス人)がどのような生活環境のもとで生きていたかを見る。歴史を学ぶ際、政治、経済、制度などに関する理解はもちろん重要であるが、日常的なテーマを通して歴史にアプローチすることもまた、過去に生きた人々の生の総体としての歴史を見る上では不可欠である。グローバル化が急速に進む今日、異なる時代、異なる地域の社会を知ることは、文化や価値観の多様性の重要性を再認識する上でも必要な作業であろう。																																		
授業方法(学習指導法)	歴史は現代を見る鏡である。歴史を語りながらも、常に現代の社会問題を想起させるよう講義したい。																																		
授業到達目標	①現代の世界の様々な社会問題について、歴史的背景も視野に入れた、より包括的な理解、検討を行う力を獲得する。②文化や価値観の多様性の重要性を再認識する。																																		
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>2</td><td>病</td></tr> <tr><td>3</td><td>死</td></tr> <tr><td>4</td><td>性</td></tr> <tr><td>5</td><td>家族と子ども</td></tr> <tr><td>6</td><td>料理</td></tr> <tr><td>7</td><td>関連ビデオ鑑賞(講義の進行具合によって前後する可能性あり)</td></tr> <tr><td>8</td><td>犯罪と刑罰</td></tr> <tr><td>9</td><td>神判</td></tr> <tr><td>10</td><td>決闘裁判</td></tr> <tr><td>11</td><td>異端審問</td></tr> <tr><td>12</td><td>魔女裁判(1)</td></tr> <tr><td>13</td><td>魔女裁判(2)</td></tr> <tr><td>14</td><td>性的不能者裁判</td></tr> <tr><td>15</td><td>総括</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション	2	病	3	死	4	性	5	家族と子ども	6	料理	7	関連ビデオ鑑賞(講義の進行具合によって前後する可能性あり)	8	犯罪と刑罰	9	神判	10	決闘裁判	11	異端審問	12	魔女裁判(1)	13	魔女裁判(2)	14	性的不能者裁判	15	総括
回	内容																																		
1	オリエンテーション																																		
2	病																																		
3	死																																		
4	性																																		
5	家族と子ども																																		
6	料理																																		
7	関連ビデオ鑑賞(講義の進行具合によって前後する可能性あり)																																		
8	犯罪と刑罰																																		
9	神判																																		
10	決闘裁判																																		
11	異端審問																																		
12	魔女裁判(1)																																		
13	魔女裁判(2)																																		
14	性的不能者裁判																																		
15	総括																																		

	16 試験
キーワード	ヨーロッパ、社会、前近代、社会史
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。 主要参考文献: 志垣嘉夫編『近世ヨーロッパ』有斐閣、1980年。木村尚三郎・志垣嘉夫編『概説フランス史』有斐閣、1982年。Fr.・ルブラン『アンシアン・レジーム期の結婚生活』藤田苑子訳、慶應義塾大学出版会、2001年。ほか
成績評価の方法・基準等	定期試験(論述を含む)(100%)。出席は受験資格の確認のみに用いる。
受講要件(履修条件)	講義中の私語、飲食、帽子の着用を厳禁する。
本科目の位置づけ	政治史中心の高校の世界史からいったん離れ、歴史への関心を広げる。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566005001	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(長崎大学史から考える日本近現代)		
編集担当教員	井手 弘人		
授業担当教員名(科目責任者)	井手 弘人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井手 弘人		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	hirotoi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部4階 452室		
担当教員TEL	095-819-2316		
担当教員オフィスパワー	金曜日III~IV校時		
授業のねらい	<p>みなさんは長崎大学がどうして長崎にあるのか、考えたことがありますか？なぜみなさんは長崎大学の学生として今いるのでしょうか？「そこに長崎大学があったから」「長崎にあるけん、そりゃ長崎大学ばい！」…いろいろな考えがあるでしょう。では、「長崎に長崎大学はどうしても存在しなければならないの？どこにでもたくさん大学はあるし、別に無くても困らないでしょう？」そう聞かれたとき、今、長崎大学の学生であるあなたはどうか答えますか？</p> <p>長崎大学154年間の歴史は、日本がひた走ってきた近現代史と実に深い関係があります。長崎大学はその歴史の中で必然的に今の大学の形に育ちました。そしてその上にみなさんは今、立っています。「どうして理学部とか文学部はないの？」「水産学部とか環境科学部と違って他の大学には無いよね」…皆さんの日常の何気ない大学への「なぜ？」が日本の近現代史と深く関わっていたりします。この授業では、長崎大学の154年を振り返りながら大学と社会との関係を学んで「長崎大学が長崎にある理由」を考え、また、歴史を「使って」長崎大学とみなさん自身、それぞれの「自分さがし」を楽しむ時間にしていきます。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>授業方法:</p> <p>(1)「みんなのひとこと」:授業の始めには、みなさんから授業ごとにもらう「一言コメント」を分析した結果をお知らせして、みなさんの意見や疑問をフォローアップします。</p> <p>(2)「長崎大学と長崎・日本・世界」:授業のメインになる講義です。いくつかの時代に区分して、長崎大学の様子とその社会背景を解説します。</p> <p>(3)「授業の要約・一言コメント」:授業の最後に、授業内容の簡単な要約と感想・疑問・意見などについての「一言コメント」をもらいます。書いてもらったコメントは翌週の授業で活用します。</p>		
授業到達目標	<p>(1)長崎大学はどういう大学なのか、社会との接点の観点から歴史的に説明できるようになる。</p> <p>(2)長崎大学は今後どのような大学に発展すべきと思うか、長崎大学の歴史的特性を踏まえて自分なりの考えを表明できるようになる。</p> <p>(3)長崎大学の出身者として、これからどのような「学び」をすすめ、将来どのような活動にたずさわって社会と関わろうと思うか、自分なりに言えるようになる。</p>		
	<p>第1部:日本の近現代史と長崎大学の発展過程との関係を考えよう</p> <p>第1回:授業内容の説明, イントロダクション:「船のマークに込められた意味とは?」 第2回:「長崎大学の『創基』—日本に「大学」ができるまで」(幕末~明治20年代)</p>		

授業内容	<p>第3回:「長大＝熊大?長崎に九大ができる??－長崎大学らしさの基盤ができるまで」(明治後期)</p> <p>第4回:「やっぱり『実学の地』は長崎－にぎわう游学のまち・長崎と長崎大学」(大正～昭和初期)</p> <p>第5回:「変わりゆく長崎、そして『運命の日』－長崎大学が忘れてはいけない経験」(昭和10年代～20年8月9日)</p> <p>第6回:「試練の連続。それでも前に進みはじめた長崎と長崎大学－復興・再生・そして成長へ」(昭和20年代～)</p> <p>第7回:「特色ある研究と教育－長崎大学ならではの大学院づくり」(現代)</p> <p>第2部:世界・日本・長崎・そして自分と長崎大学との関係を考えよう</p> <p>第8回:「キャンパスをさるこう!－意外と気付かない?大学の隠れた名所」(ミニ・フィールドワーク)</p> <p>第9回:「キャンパスをさるいてきたよ!－長崎大学・歴史発見プレゼン大会!」(プレゼンテーション)</p> <p>第10回:「『大学ランキング』って何さ?－長崎大学をとりまく、グローバル化の波」</p> <p>第11回:「『地方国立大学』って何さ?－田舎の大学?九大の下?それとも・・・」</p> <p>第12回:「さあ新年!改めて考えよう、あなたはどのように『長崎大学人』?これからどんな『長崎大学人』?」</p> <p>第13回:「これからの長崎、これからの長崎大学のあるべき姿は?」</p> <p>第14回:「結局、長崎大学ってどんな大学?－自分の意見をまとめてみよう」</p> <p>第15回:「最終討論:長崎大学の過去・現在・未来」</p>
キーワード	長崎大学史, 長崎, 近現代史
教科書・教材・参考書	授業前・授業時に提示するハンドアウト(配布物)を中心に進めます。 参考図書, インターネットのサイトなどは授業時に適宜伝えます。
成績評価の方法・基準等	<p>(1)授業ごとに提出する「要約・一言コメントシート」(30点)</p> <p>(2)Webclassを通じたプレゼンテーション(25点)</p> <p>(3)「長崎大学生としての自分の現在・未来」レポート(45点。A4:3枚(字数3600字)程度)</p>
受講要件(履修条件)	特にありません。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木1																														
開講期間																																	
必修選択	選択	単位数	2.0																														
時間割コード	20110566005005	科目番号	05660050																														
授業科目名	●社会と歴史(コンピュータサイエンス史)																																
編集担当教員	柴田 裕一郎																																
授業担当教員名(科目責任者)	柴田 裕一郎																																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柴田 裕一郎																																
科目分類	人文・社会科学科目																																
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																														
教室	[全]430																																
対象学生(クラス等)	全学部																																
担当教員Eメールアドレス	shibata@cis.nagasaki-u.ac.jp																																
担当教員研究室	工学部1号館4階 情報システム研究室304																																
担当教員TEL	ex 2572																																
担当教員オフィスアワー	月曜1校時																																
授業のねらい	現代社会に欠かせない存在であるコンピュータやネットワークは、いつ誰が何のために発明し、どのように発展してきたのか、コンピュータおよびネットワークと社会との関わりはどのように変化してきているのか、どのような可能性と問題点を含んでいるのか、などをコンピュータサイエンスの歴史を通じて概観する。																																
授業方法(学習指導法)	講義形式を中心とし、適宜演習やグループワークを行う。																																
授業到達目標	コンピュータやネットワークに関する正しい技術的・歴史的認識を基礎にして、今後のコンピュータサイエンスの向かうべき方向性について自分の意見を説明できる。																																
授業内容	<p>コンピュータの誕生はそれほど歴史を遡らないように思われるが、「世界初のコンピュータ」をめぐるさまざまな議論がある。前半ではこの問題を扱いながら、コンピュータの技術的・理論的発展の経緯を概観し、「コンピュータとは何か」について考える。後半では世界中のコンピュータを結ぶインターネットの発展について概観し、コンピュータやネットワークが現代社会にもたらす可能性と問題点について考える。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>2</td><td>世界初のコンピュータをめぐる論争</td></tr> <tr><td>3</td><td>古代の計算道具</td></tr> <tr><td>4</td><td>バベッジとエイダ(1)</td></tr> <tr><td>5</td><td>バベッジとエイダ(2)</td></tr> <tr><td>6</td><td>フォンノイマンとENIAC(1)</td></tr> <tr><td>7</td><td>フォンノイマンとENIAC(2)</td></tr> <tr><td>8</td><td>チューリングマシンとコンピュータの理論限界</td></tr> <tr><td>9</td><td>コンピュータは考えるか?</td></tr> <tr><td>10</td><td>インターネットの誕生</td></tr> <tr><td>11</td><td>インターネットとロングテール</td></tr> <tr><td>12</td><td>ネット社会の光と影(1)</td></tr> <tr><td>13</td><td>ネット社会の光と影(2)</td></tr> <tr><td>14</td><td>現代暗号とセキュリティ</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション	2	世界初のコンピュータをめぐる論争	3	古代の計算道具	4	バベッジとエイダ(1)	5	バベッジとエイダ(2)	6	フォンノイマンとENIAC(1)	7	フォンノイマンとENIAC(2)	8	チューリングマシンとコンピュータの理論限界	9	コンピュータは考えるか?	10	インターネットの誕生	11	インターネットとロングテール	12	ネット社会の光と影(1)	13	ネット社会の光と影(2)	14	現代暗号とセキュリティ
回	内容																																
1	オリエンテーション																																
2	世界初のコンピュータをめぐる論争																																
3	古代の計算道具																																
4	バベッジとエイダ(1)																																
5	バベッジとエイダ(2)																																
6	フォンノイマンとENIAC(1)																																
7	フォンノイマンとENIAC(2)																																
8	チューリングマシンとコンピュータの理論限界																																
9	コンピュータは考えるか?																																
10	インターネットの誕生																																
11	インターネットとロングテール																																
12	ネット社会の光と影(1)																																
13	ネット社会の光と影(2)																																
14	現代暗号とセキュリティ																																

	15	コンピュータサイエンスの未来
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書		参考書(他にも適宜紹介する):星野力「誰がどうやってコンピュータを造ったのか」(共立出版1995)
成績評価の方法・基準等		定期試験50%、レポート50%
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学_人文・社会科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566005006	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(社会学概説)		
編集担当教員	保坂 稔		
授業担当教員名(科目責任者)	保坂 稔		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	保坂 稔		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]321		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	hosaka@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環425		
担当教員TEL	819-2728		
担当教員オフィスアワー	木9:30-10:30		
授業のねらい	社会学の基礎知識を習得し、現代社会の様々な社会問題を分析できる思考力を養う。		
授業方法(学習指導法)	現代社会で生じる問題を社会的に分析するための方法について学ぶ。講義の中では、家族、政治参加、コミュニケーション、集団、非行といった具体的事例を取り上げる。		
授業到達目標	社会学の基本概念を簡潔に説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション 社会学とは何か	
	2	心理学との関係ー分析の視点	
	3	家族をめぐる社会問題:児童虐待	
	4	社会調査の基本	
	5	サンプリングの実際	
	6	社会学の成立	
	7	合理化	
	8	宗教の理解	
	9	ナショナリズム	
	10	ポストモダン	
	11	コミュニケーション的合理性	
	12	機能主義社会学	
	13	さまざまなコミュニケーション論	
	14	ジェンダーの社会学	
	15	社会病理学:犯罪とラベリング理論	
	16	定期考査および評価	
キーワード	合理性、支配、コミュニケーション論的転回		
教科書・教材・参考書	『入門 グローバル化時代の新しい社会学』(西原和久他編・新泉社)		

成績評価の方法・基準等	試験(90%)、講義中の小レポート(10%)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.